

日野病院病棟区分変更について

昨年12月に増床し、
199床に生まれ変わった日野病院は、
この度、病棟区分変更を行います。



第193回国会(常会)に提出された法律改正案で、平成30年の診療報酬・介護報酬同時改訂において「今後、増加が見込まれる慢性期の医療・介護ニーズへの対応のため「日常的な医学管理が必要な重介護者の受入れ」や「看取り・ターミナル」等の機能と、「生活施設」としての機能を兼ね備えた、新たな介護保険施設を創設する。」とされており、現在の医療機関にある長期療養のための「療養病床」を縮小し、介護保険で運営される施設への移行が推進されるという方針が打ち出されました。

すなわち、将来的に医療機関によるサービス提供ができなくなり、介護保険制度でのサービス提供となるため、本院としても地域のニーズにお応えすることが困難となりました。

〈病棟区分の変更点〉

病棟	7月	10月
3階 南	回復期リハビリテーション病棟 60床	回復期リハビリテーション病棟 60床
3階 北	地域包括ケア病棟 43床	回復期リハビリテーション病棟 49床
4階 南	一般病床 4床	一般病床 8床
	地域包括ケア病床 52床	地域包括ケア病床 42床
4階 北	療養病棟 40床	地域包括ケア病棟 (※9月～変更) 40床
		回復期リハビリテーション病床 109床 地域包括ケア病床 82床

〈病棟区分変更に伴うメリットとデメリット〉

メリット

急性期病院からのご紹介についても、よりスムーズに早期の転院につなげることができ、発症早期からの集中的なリハビリテーションをご提供できる体制となります。

デメリット

療養病棟がなくなることで、長期の入院ができなくなります。

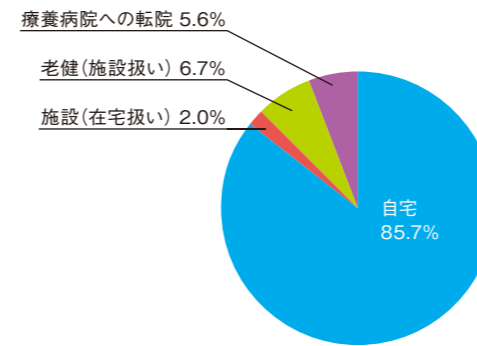
日野病院では、365日休みなくリハビリテーションを行っています。
特に回復期リハビリテーション病棟では、毎日3時間の個別リハビリテーションを行っています。

機能面の回復だけでなく、退院後の生活を見据えた目標を設定し、それに基づいたリハビリテーションを行うことにより、早期の自宅復帰だけでなく、日常生活管理から社会への完全復帰を援助しています。

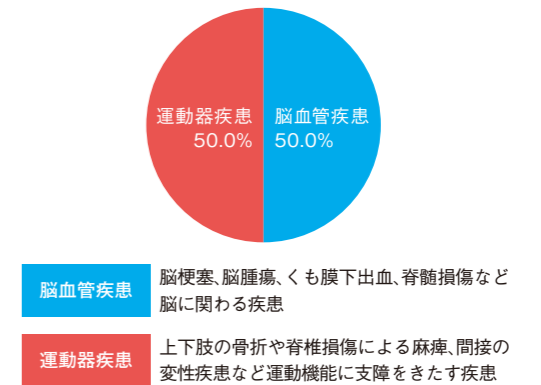
平成28年4月～平成29年3月の実績

当院の回復期リハビリテーション病棟の在宅復帰率は、**87.7%!!**
この内、ご自宅に帰られている方が、**85.7%**になります。 ※(参考)平成28年8月～10月 3ヵ月の在宅復帰率全国平均 78.3%

回復期リハビリテーション病棟からの退院先



回復期リハビリテーション病棟での疾患内訳



入院患者さんや、外部の医師からこのようなお声をいただいております。

ご意見箱 入院患者さんからいただいたお声

多数の入院患者さんの医療のお世話、食事の準備と手助け、後片付け、排便のお世話、お風呂の手助け等々、多岐にわたって良くお世話されています。
入退院が多く、新しく入院された患者の病状はもちろん、性格、好みをいち早く把握し、医療介護に努めているのは立派です。 < 中略 >
リハビリの療法士さん達の対応も素晴らしいです。
看護師さんと療法士さんは車の両輪です。日野病院さんの宝です。日野病院さんの「現場力」立派です。これを大事に育てて更なる成長されますように。
最後に看護師さん達に感謝、感謝、感謝！又、お世話になります。 < 抜粋 >

外部医療機関 医師からいただいたお声

お世話になっております。
リハビリ加療をありがとうございます。初回の骨折からは想像できないほど回復しており、貴院のリハビリ技術の高さに感服しております。今後ともどうか宜しくお願い致します。 < 原文まま >

今後も、日野病院が、今まで以上に地域の皆さんにご利用いただきやすく、
また良質な医療サービスの提供ができるよう、努めてまいります。

